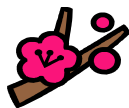




西前小だより

横浜市立西前小学校

Web:<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nishimae/>

平成27年のスタート ー「わくわく大作戦」から学ぶことー

校長 末松 隆一郎

明けましておめでとうございます。

平成27年が始まりました。寒さ厳しい中にも、日射しの温もりに春を思い、穏やかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。皆様が明るく健康に満ちた1年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

年の初め、それは清らかな空気に包まれ、それぞれの夢や希望、目標や抱負を心新たにもち、その実現に向けてスタートや仕切り直しができる節目の時でもあります。私は勇気や力をもらうべく、また、一本の襷（たすき）を繋ぐため、「絆」をもとに死力を尽くして戦う姿に魅了され、「東京箱根間往復大学駅伝競争」（箱根駅伝）を毎年とても楽しみにし、応援しています。西前小学校に着任した昨年度からは、応援の場を浜松町交差点に移し、花の2区を疾走する選手達に精一杯の声を掛けています。今年も、すばらしいドラマが生まれ、大いなる力を与えてもらいました。

「わくわく大作戦が、大成功しました。」

今年、驚異的な記録で創部97年目にして初優勝した青山学院大学の原晋監督の言葉です。「わくわく大作戦」、それは原監督が、大会が近づくにつれ緊張感が高まっていったチームの空気を察し、記者会見の場で命名した作戦名でした。



「名付けて今回は、『わくわく大作戦』。青学ファン、沿道の皆さん、皆にわくわくしてもらえそうな襷リレーをしたい。」

監督の思いはしっかりと伝わり、青山学院の選手たちは「みんながわくわくする走り、青学の走りってなんかわくわくするなって思える走り」を心がけたそうです。私も浜松町での応援の後はテレビでずっと観ていましたが、本当に楽しそうに走っていました。原監督の「わくわく大作戦」が見事に功を奏し、笑顔が能力を最大限に引き出し、区間賞連発の見事な走りを生み出した結果、史上最速記録での初優勝へと繋がりました。しかし、レース後のインタビューで、原監督はこうも言っていました。

「ただ明るく笑顔なだけではない。ここに至るまで、チーム全員がうそ偽り無くコツコツと努力を続けていた。それが大前提にある。」

そして、「笑顔」や「明るさ」というイメージが強調されがちなことに対しては、「宝塚音楽学校と同じ。見えないところでは泥臭く努力しても、表舞台では華やかにしてやりたい。」とも言っていました。あの過酷なレースを「楽しむ」ためには、やはり明確な指導方針と、それに答えてきた選手達の意識改革、想像を絶する努力があり、それを通して生まれた自信があってはじめて、駅伝当日の「わくわく笑顔」になったのだと私は思います。

原監督が「わくわく大作戦」に至るまで大切にしていたことは、

- ①生活のリズムを整えること。
- ②明確な目標設定と定期的な振り返りをする事。
- ③選手一人ひとりの良さ、学校やチームの雰囲気尊重しながら、弱点さえも長所に変えること。

そして、上記のことを軸にしながらい人間力の育成を目指すとともに、常に最先端の指導理論と科学的アプローチを取り入れて強化を図っていくことでした。これは、教育現場はもとより、どの分野においても、とても大切なことであると思います。

西前小学校のエネルギーは、教職員、保護者・地域の皆様の絆であり、そのパワーが子どもたちの笑顔をより一層輝かせてくれています。今年も様々な場面を通して、子どもたちに感動する心、思いやる心、感謝する心、学ぶ心、がんばる心を耕していきます。それぞれの襷をしっかりと繋ぎ、「わくわく」with Smileで、今年も教育活動の充実を図っていきたいと思います。

本年もよろしくお願い致します。

